

令和7年度

研究構想図

土岐市立肥田小学校

【市の学校教育の方針】

- ☆「やってみたい」を引き出し、「できた」「わかった」と実感できる授業の実現
- 【市の実践課題】
- ◎子どもたちが主体的に取り組む学習指導の確立（魅力ある教材と学び方指導）
- ◎感性や創造力を発揮して、自分の考えを広げたり深めたりする協働的な学びの実現

【学校教育目標】

よく学び
たくましく
心豊かな子

【学習指導要領の理念である生きる力】

- 基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用して、自ら考え、判断し、表現することにより、さまざまな問題に積極的に対応し、解決する力
- 自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性
- たくましく生きるための健康や体力

〈児童の実態〉

- 前向きに課題に向かう子が多い。
- 仲間と関わりながら、考えを広げたり深めたりする子が増えてきた。
- 前学年の基礎的な知識・技能が十分身に付いていなかったり、なかなか定着しなかったりする。
- 根拠をもとに筋道を立てて考え、資料や既習の知識をうまく取り入れながら、考えたことを表現できない。

〈願う児童の姿〉

- 授業に意欲的に参加し、算数が好きな子
- 根拠をもとに筋道を立てて考え、資料や既習の知識をうまく取り入れながら考えたことを表現できる子
- 数学的な見方・考え方を働かせ、事象を統一的・発展的に考察し、考えたことを表現できる子
- 対話的な交流活動の中で、自分から考え方を求めたり、つなげて考えようとしていたりできる子

〈研究主題〉

どの子もわかる、できる、深まる授業づくり
～対話的な活動を通して～

〈研究仮説〉児童が「思考する」ために、見通しをもって課題解決に向かうことができる導入の工夫を行う。必然性のある様々な対話的な活動を仕組み、根拠を明らかに筋道立てて「表現する」方法について指導する。最後に、児童の実態に応じて、自分の学びを振り返る場を工夫する。このような授業を行えば、児童が豊かに表現する力が高まり、「わかった」「できた」と実感できるだろう。算数科の授業実践を通して、次の研究内容を展開すれば、願う児童を育成することができるだろう。

〈研究内容〉

研究内容1 見通しや課題意識がもてる導入の工夫

- (1) 必然性のある学びを生み出す事象提示と課題設定
 - ・問題提示の仕方を工夫し、児童から問いを引き出し、課題化する。
- (2) 見通しをもたせ、粘り強く取り組ませるための仕掛け
 - ・既習、未習事項を整理し、学習の手掛かりとなるキーワードを提示する。

研究内容2 仲間と考えを広げ深める対話的な活動の工夫

- (1) 目的や方途を明確にした、必然性のある対話的な活動
 - ・教師は気付きや問いを引き出す発問を工夫し、「目的」「テーマ」「形態」「機会」を明確にした必然性のある対話的な活動を仕組む。
 - ・根拠を明らかに、数学的表現を用いて、筋道立てて表現するための指導を工夫する。

研究内容3 学びを自覚し、よりよい自分を実感できる終末の工夫

- (1) 単位時間内にめざす姿の定着状況の見届け
 - ・一人一人の学びの状況に応じた習熟の時間の充実を図る。
- (2) 学びの成果を振り返り、自己の変容を自覚する自己評価
 - ・自分の学びを正しく捉え、変容に気付かせる自己評価の内容を工夫する。

〈研究の基盤…授業向上部会・家庭学習部会・学習部との連携〉

【授業向上部会】・「肥田小スタンダード」に基づく学び方の定着

【家庭学習部会】・音読 ・ドリル年間2周り ・週末日記 ・タブレットを活用したドリル学習
・「家庭学習の手引き」を使った家庭への啓発 ・自主的な学びや基礎・基本が定着するための家庭学習の仕方の提案

【学習部】・「学習見届け週間」の位置付け ・学習規律の指導・見届け